

レ ス ス ン プ ラ ン

6 学年 第 2 回 (自己理解②)

テーマ : 「違いの違い」



授業の目標:

- (1) 文化や個人個人の違いについて考える。違っていてもよいということを知る
- (2) どのような違い(習慣の違いや個人の好みの違い)なら受け入れることができ、どのような違い(不平等や権利の侵害)が受け入れられないのか考える

用意するもの :

	ALT		担当教師
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「違いの違い」カード (各グループ1セット) <input type="checkbox"/> 「友だちっていろいろ Friends Can Be Different」のお話 (英語版) 		<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子どもたちを4～5人のグループに分けておく <input type="checkbox"/> 「友だちっていろいろ Friends Can Be Different」のお話 (日本語版) 	

時間	活 動	気付いた点
1分	ALTと担当教師 はあいさつをし、 担当教師 は人間には共通点も多いが、相違点も多いことを説明し、本時のテーマは「“違い”について考えること」であると伝える。	
20分	ALT は「違いの違い」ゲームのルールを説明する。各グループにカード1セットが配られ、子どもたちはカードを全てふせて机の上に並べる。順番にカード1枚を裏返し、そこに書かれている文章を読み上げる。そしてグループみんなで、そのカードに書かれている違いが、「あって良い」ものか「あってはならない」ものか、「何とも言えない」ものなのかについて話し合い、その理由も考える。このようにゲームを最後まで続ける (制限時間15分)。 担当教師 は、カードをめくったら必ず全員が意見を言うように繰り返し指示する。	
10分	各グループの代表が4～5つの文章について、どんなふうになぜその文章を「あって良い」「あってはならない」「何とも言えない」としたのか説明する。 担当教師 は黒板に書かれたこの3つのタイトルの下にそれぞれの文章を貼る。(マグネットに書いてある)	
12分	「友だちっていろいろFriends Can Be Different」のお話を読む。 ALT が英文を読み、そのあと 担当教師 が日本語を読む。	
2分	担当教師 は、「人はそれぞれ違っていて、またその違いはあって良いのです。それに、自分とは違う友だちをもつことで自分の生活が豊かにもなります」と話し、「しかし、許せない違いもあって、人が基本的に誰もが等しくもつべき権利 (基本的人権) を奪ってしまう違いもあるので、いろいろな角度から物事は考えたいですね」等とまとめる。	